

＜ 今日の説教のポイント 出エジプト記 14 章 1—14 節 ＞

「葦の海の奇跡」の物語はイスラエル人の見事な信仰の告白文書！

1 (1-4) 神様が策略を凝らし、イスラエル人の心をかたくなにされた？

イスラエル人の信仰の原点とも言える「葦の海の奇跡」の個所です。ここに繰り返し記される重要な三つの内容があります。「わたしはファラオの心をかたくなにする」「わたしはファラオとその全軍を破って栄光を現す」「エジプト人はわたしが主であることを知るようになる」です。この三つが「葦の海の奇跡」を経験した人たちが伝え残そうとした大事なことです。彼らを経験した事実がまずあります。それを彼らが後で振り返って記した記事を今私たちが目にしているわけです。見出しに書いたように、神様を擬人的に記している部分もあります。今の私たちからすれば妙な気がします、そのこと自体ではなく、それによって彼らが一番伝えたかったことに目を向けなければなりません。三つの言葉に共通するのは「わたし（神様）」の強調です。彼らは、自分たちを救い出して下さる神様の存在を知ったのです（体験を伴う深い認識）。同じ神様が起こされたイエス・キリストの出来事を知った私たちキリスト者が、この神様の存在を全ての人に宣べ伝える務めが託されたのです。

2 (5-8a) 私たち自身の姿 1 のど元過ぎれば熱さも忘れる。

ファラオと家臣は、奴隷であったイスラエル人を解放しなかったために神様からあれだけ痛い目に遭ったのに、もうそれを忘れてイスラエル人を追いかけてました。それは私欲のためでした(5, ヤコブの手紙 1:15 「欲望ははらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます」)。「主がエジプト王ファラオの心をかたくなにされたので」(8)は、「そうなるに任せられた」ととればいいでしょう。神様は私たちをロボットのようなものとして造られたのではなく、選べる自由さを持つ中で神様が喜ばれる方を選んでくれる者として造られたのです(創世記 2:16-17, 3 章のテーマ)。

3 (8b-14) 私たち自身の姿 2 あの元気な姿はどこへ行った。

「意気揚々と出て行った」(8b)イスラエル人でしたが、エジプト軍が追って来たのを知った途端、怯えきって「主に向かって叫び」(10)、悪口雑言を吐きました。それに対して答えたモーセの次の言葉こそ、彼らがこの出来事を通して教えられ、伝えたかった一番大事なことでしょう、「恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる